平方北小学校再編検討協議会ニュースレター

No.4　令和7年5月20日発行

「平方北小学校再編検討協議会」とは

上尾市学校施設更新計画基本計画では、小学校は全ての学年で１学級編制の状態が５年以上継続することが見込まれた場合、学校関係者、保護者や地域住民とともに、統廃合を含めた学校の再編について、検討を開始することとしています。

平方北小学校は令和２年から１学年１学級編制の状態が続いており、今後もその状態が見込まれるため、市では令和6年度から上尾市立平方北小学校再編検討協議会を設置し、子供たちの学びに望ましい学校規模を実現する最適な方法を検討していきます。

第４回協議会において、前回に引き続き
「近隣校の児童数をふまえた再編」「児童への意見聴取」について協議

◎ 近隣校の児童数をふまえた再編

第3回の協議会で将来的な児童数を見据え、平方地区だけでなく大石地区の小学校も含めて再編を考えた方が良いとの意見があったため、通学区域を再編する検討のイメージを作成し、協議を行いました。

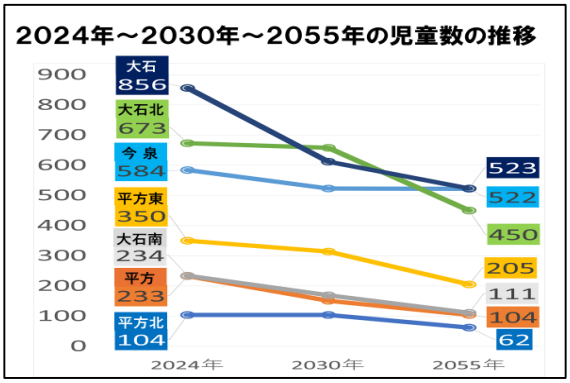
将来的な児童数はどうなる？

平方北小学校の近隣校と大石地区の小学校の将来的な児童数の推計は右上のグラフ１のとおりです。

全体的に減少傾向であり、現在は856人の大石小学校の児童数は、2055年（令和37年）には約500人まで減少し、学級数も18学級で適正規模となる見込みです。

また、大石南小学校、平方小学校では100人程度に、さらには、平方北小学校の児童数は62人まで減少することが見込まれ、複式学級(※)の学級編制となる可能性も懸念されます。

※ 複式学級とは1学年の人数が少なくなった場合に、複数の学年で一つの学級とすることです。2つの学年の合計児童数が16人を下回った場合に、2つの学年で1つの学級編制となります。



グラフ1：　2024年～2030年～2055年の児童数の推移

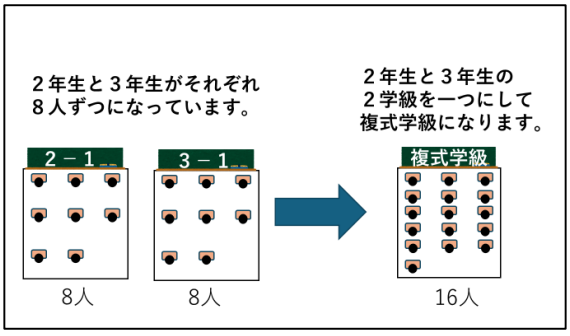


図1：　複式学級の図式

新しい再編のシミュレーションは？

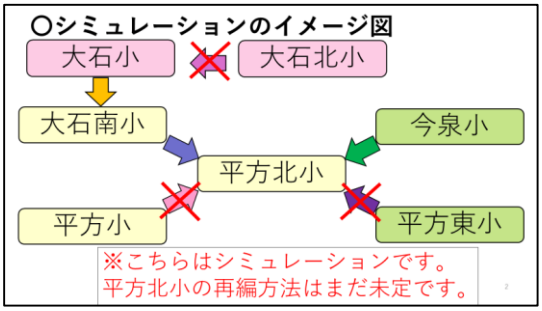


図2：　シミュレーションのイメージ図

現在の０～５歳のお子様が小学１～６年生になる６年後の各校の児童予測を基礎に、大石地区を含めた再編のシミュレーションを作成しました。

作成に当たっての配慮事項としては、「編入する範囲は自治会全体で編入とすること」「学校を通り過ぎて別の学校へ通学する編成は行わない」などを考慮した上で作成しました。

その結果としては、大石南小学校において、全ての学年で単学級編制となるが、それでも平方北小学校においては適正規模とならない結果となりました。

学区調整区域の効果の見込みは？

　第３回協議会では「他校の児童を平方北小に編入することに決定した場合、強制的に転入になるのか」というご意見がありました。近年行った学区調整では複数の学校を選択できる「調整区域」を設けて、急な学校変更とならない方法を採用しています。

　そこで、平方北小への編入希望を把握するため、平方北小の通学区域に近接する、他校の学区内に居住する未就学児の保護者に対して、就学の意思について、アンケートを実施しました。

　結果としては、8割以上の保護者が、平方北小を選択しない回答であり、この結果を踏まえると他校からの編入は難しいことが想定されます。

平方北小学校の通学区域変更に係るアンケート（対象：近隣校の未就学児保護者）

問　現在、平方北小学校は、1学年から6学年まで1学級編制の小規模な学校となっています。今後、お子様が入学予定の小学校のほかに、平方北小学校への就学を選択できるようになった場合、平方北小学校への就学を選択しますか。次の中から 1つ「○」を記してください。

学校名	選択する	選択しない	わからない
平方 小学校	1（1.2％）	66（81.5％）	14（17.3％）
大石南 小学校	1（1.3％）	64（85.3％）	10（13.3％）
今泉 小学校	1（0.5％）	205（93.6％）	13（5.9％）
平方東 小学校	2（1.5％）	127（92.7％）	8（5.8％）

協議における委員の意見

≪学校の適正規模≫

- （地元住民）子供の数が減っているので、適正規模が12～18というのが将来を見据えて適正なのかという疑問があります。
- （有識者）第2回の会議で、単学級では学校や親の負担が出ることや、子供たちはクラス替えができないことから、適正規模を12学級～18学級と定めたという話をしたと思う。

≪学区と自治会≫

- （地元住民）私達の地域の子どもたちが同じ学校に行けるならいいなと思う。
- （地元住民）自治会の区域内で同じ学校に通うようにすることは大事だと思う。
- （現役保護者）統合などで同じ学校の友達が増えていけば、自治会の集会場などで子供たちの交流が広がると思う。
- （地元住民）子供会と自治会を無理やり同じ区域にしなくてもいいのではないかと思う。子どもたちの学区を考える上で、自治会の都合を考慮しすぎるのもよくないと思う。

≪学校の統廃合≫

- （地元住民）本当に子供のことを思ったら、学校をまとめていかないといけないと思う。
- （教職員）現在の上尾の小学校の数は、子供が多かった時代の学校数なのかとも思いました。
- （現役保護者）他の学校から児童を集めて平方北小を存続させるのは、難しいと思う。

≪学区の調整区域≫

- （現役保護者）調整区域の導入などを実施するなど、できることを行った後、統廃合にするなら納得いくのではないかと思う。
- （未就学児保護者）調整区域にしても、地区で子どもの絶対数は変わらないため児童数を増やすのは難しく、遠くから児童を編入するのも難しいので、平方北小の魅力を上げていくしかないのではないかとは思う。

◎ 児童への意見聴取について

　小学生への意見聴取は時期を見て実施すること、中学生への意見聴取については単学級から複数学級に変わって感じたことを聞くが、設問について再度考えることとなりました。

発行元・連絡先・資料について

発行：上尾市教育委員会　教育総務課　新しい学校づくり推進室
〒３６２－８５０１　上尾市本町３－１－１
TEL：０４８－７７５－９４６９（直通）
第４回の協議会の会議録、資料は右記の二次元コードからご確認いただけます。